

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3071600518		
法人名	平成福祉法人 平成福祉会		
事業所名(ユニット名)	かぐのみ苑湯浅グループホーム さくら町		
所在地	和歌山県有田郡湯浅町湯浅2032-1		
自己評価作成日	平成25年8月16日	評価結果市町村受理日	平成25年10月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/30/1/ndex.php?acti_on_kouhyou_detail_2012_022_ki_hon:true&amp;ji_gyosvoCd=3071600518-00&amp;PrEfCd=30&amp;Versi_onCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/30/1/ndex.php?acti_on_kouhyou_detail_2012_022_ki_hon:true&amp;ji_gyosvoCd=3071600518-00&amp;PrEfCd=30&amp;Versi_onCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成25年9月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>地元の催し物には積極的に参加したり、学校の児童、生徒との交流を大切にしていきたいため、餅つき教室やふれあい体験を苑内で開催しています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は国道に面する場所にあり、利用者の安全確保という課題を担っているが、その事で活動の幅が狭まらないように、外出の機会を多く持つ等の工夫を重ね支援している。理念に掲げたとおり、地域との交流を重視し、積極的に働きかけを行いながら、行事等の開催に反映させている。また、現状に満足する事なく地域・行政との連携を更に強化する為、自主防災組織への加入等の具体的取り組みを展開している。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員一人ひとりが意見を出し合い、地域密着を踏まえた理念を作り、毎朝唱和することで実践につなげている	地域の中での本人らしい生活を重視した理念を職員の手で作り上げ、ホールに掲げると共に毎朝唱和している。唱和する事を通して全ての職員が原点に立ち戻りかつ理念の共有を深めながら日々のケア実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者と共に買い物に出かけたり、町や区の行事の参加や、苑の夏祭りを地域に開放したりと交流している	自治会に加入しており、地区の秋祭りや敬老会等の行事に利用者と共に参加している。苑の催す夏祭りには地域の大勢の方々の参加がある。教育委員会との連携による餅つき会、大正琴のボランティア受け入れ等交流の機会が多い。又近くのスーパー等へは頻繁に出かけ、日常的な交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年に4回「かぐのみ便り」という便りを作成し地域に配布したり、学生やホームヘルパー受講生の実習の受け入れを行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催しており、役場の職員、民生委員、家族に参加してもらいサービス向上に活かしている	町担当者又は包括センター職員、区長、民生委員、教員、家族等の出席を得て、2月に1回開催している。利用者の生活の様子、事業所としての評価への取り組み、防災対策等について報告や話し合いを行い、意見を集約しながらサービス向上に活かしている。新たな試みとして、外部評価調査員も参加しての開催を予定している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入退所状況の報告や空き状況に合わせショートステイも利用していただけるよう日頃から連絡を取り合っている	町担当者、包括センター職員には運営推進会議の他、機会ある毎に事業所の実情や取り組みの内容を伝えている。又教育委員会や教員との連携も重要であると考えており、働きかけが実を結びつつある。行政担当者との一層の協力関係構築を目指し取り組みを強めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会などで定期的に身体拘束について学ぶ機会を設けており、立地上エレベーターは安易に使用できないようになっているが、希望される場所へは職員が付き添い自由に出してもらっている	事業所内外の研修を通して、身体拘束となる具体的な行為を全ての職員は正しく理解している。又、直接的拘束ではない為見逃し勝ちなスピーチロックについても、自己点検、相互確認に徹している。事業所前の交通量の多さから単独での外出はできないが、利用者の要望に応じて職員同伴での外出実施に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や外部の研修に参加し虐待について学び、虐待防止の徹底に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会で学ぶ機会を持ち、活用できている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や改定時には、利用者や家族の不安、疑問を尋ね、理解、納得をしていただるように十分な説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から関係作りに努め、要望・意見を出せるよう配慮している 家族会の開催や苦情窓口、投書ポスト設置など	苦情窓口や投書ポストの利用は少ないのが実情である為、家族等の面会時や年2回開催する家族会で意見、要望を聞き取るようにしている。運営推進会議は家族等が意見、要望を外部者に表せる場となっており、それらを運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や匿名の書面で意見や提案を出すことができ、それらを反映できるようにしている	引き継ぎのミーティング、定例会議、人事考課の面談に加え、無記名の書面の提出等を通して代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を受け、反映させるように努めている。勤務時間帯の改善や、職員用駐車場の拡充が実現した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回人事考課を実施し、昇給や賞与に反映、個々に応じた労働条件で働けるよう就業の整備に努めている また事業所全体で匿名で意見を出し提出する機会があった		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な勉強会の開催、新人研修や外部の研修を受ける機会の確保、現場では職員の力量に応じた指導を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームへかぐのみ便りを配布したり、管理者研修の運営推進委員会の勉強会などに参加し、交流を深めサービスの向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの開始前に本人の希望を確認し、良い関係作りができるよう取り組んでいる 希望があれば苑の見学をしてもらっている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安なく納得し利用開始できるよう、要望などを伝えてもらい信頼関係が築けるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前、徐々に苑に馴染んでもらえるようショートステイやデイサービスを利用されるケースもあり、その時々状況に合わせて対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	行事への参加や毎日の調理や洗濯など日常生活と一緒に行動中、入所者から学ぶ事も多く共に支え合い良い関係を築けるよう取り組んでいる		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事参加への呼びかけ、通院や外出支援、面会など各家族の可能な範囲で協力してもらいながら本人を支える関係作りができるよう取り組んでいる		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出・外泊を自由にしてもらうことで、これまでの関係が途切れないように努めている	事業所は訪問しやすい雰囲気づくりを心がけており、家族や知人による面会や外出、定期的外泊等が実施されている。墓参り等の外出は基本的には家族等に依頼しているが、場合によっては職員が対応する事で、これまでに築かれた関係の継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性を把握し、食事の席や作業、外出などの組み合わせに配慮し、利用者同士が関わりあえるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院などでサービスが終了した場合、希望があれば相談や他サービスの支援に努めている 他に家族や知人の方などでは、退苑後も夏祭りの参加や出張でカットに来てくれている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向の把握、また困難な場合は日々の様子から思いを汲み取るようにし、その人らしい暮らしが続けられるよう努めている	センター方式を活用して、利用者一人ひとりの思いや意向の把握に全職員で取り組んでおり、困難な場合には、全体的な観察から得られた情報を職員間で共有し、本人の視点に立って検討を重ねながら実践に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴などを教えてもらい、センター方式のアセスメント用紙に記入している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の状態、気付きなどをセンター方式の様式をアレンジしたケース記録用紙に記入している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要時や定期的なカンファレンスの開催、本人や家族の意向、担当医や訪問看護師の意見等を取り入れ、介護計画を作成している	面会等の訪問時に、本人、家族等の意見や要望を聞き取ると共に、往診時等に医師、看護師関係者と話し合い、職員間でのカンファレンスを経て、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。又現状に即した介護計画とする為、状況の変化に応じて見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子などは、個別記録に記入し、職員間で共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院や行事等で、苑の車を利用し外出支援を行っている そのほか、希望や必要性がある場合も苑の車を使用できる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町や区の行事への参加、小中高校の生徒との交流、実習生の受け入れやボランティアの慰問、消防や警察等色々な地域資源と協働している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望する医療機関を選んでいただいております。定期的な往診、緊急時等適切な医療を受けられるようにしています	本人及び家族等の希望によりかかりつけ医を選んでおります。又、ほぼ全ての利用者が、事業所の提携医の、基本的には2週に1回、緊急時等の状況に応じて随時の往診を受けています。他科受診を要する場合も、文書等で情報提供を行いながら、利用者が安心して生活ができるように受診を支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制と取っており、地域の看護師と協働し適切な医療を受けられるようにしています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は家族への問い合わせや、面会に行き状態を確認したりと病院関係者と連携し、早期退院が出来るよう取り組んでいる		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の説明は、入所契約時に行い本人、家族の意向に沿えるよう支援している	重度化や終末期の事業所としての対応は契約時に説明しているが、状況の変化に応じて、本人、家族等及び医師、看護師等関係者と話し合いを行い、方針を共有しながら支援している。事業所としては本人、家族等の希望があり医療面での対応も可能な場合は看取りを行う意図であり、その体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し職員全員が周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署の立会の避難訓練と地域の地震、津波の避難訓練に参加している	定期の避難訓練は、昼間及び夜間を想定し、利用者と職員が共に参加しての実施である。災害時に必要な物品を備蓄し、定期的確認をしている。地域の避難訓練には職員のみが参加している。	避難誘導時には、職員だけの対応に限界がある為、地域の人々の実際の協力が必要となる。運営推進会議で話し合うと共に、町の進める自主防災組織に積極的に加入する事で、具体的な支援体制の整備に取り組む事を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ケアの情報が周囲に安易に伝わらないよう イニシャルや記号を用いたり、人格の尊重を 心掛けた対応、言葉かけをしている	援助をする際には、目立たずさりげない、自己決定しやすい言葉かけに努めており、職員間で日常的に確認し合っている。利用者一人ひとりの情報については特定できないように配慮し、責任ある取扱いと管理を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を大切にし、自己決定が出来るような場面作りを心掛けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりに合わせ、その人らしい暮らしが出来るよう取り組んでいる		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの服装や化粧などできるよう家族と共に支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの能力に合わせ、野菜切り、盛り付け、片付けなどを一緒に行っている	利用者の要望や嗜好調査の結果をもとにメニューをつくっている他、自家菜園の収穫物も適宜取り入れており好評である。下ごしらえ、盛りつけ、後片付け等一連の作業を利用者一人ひとりが持てる力を発揮して、職員と一緒にっており、食事が1日の大切な活動のひとつとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の作成したメニューの提供、状態に合わせた形状での提供、摂取量を把握し、少ない場合は代品を提供し食事量が確保できるようにする等工夫している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに合わせ口腔ケアを行っている 希望者は週1回、歯科衛生士による訪問口腔ケアを受けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンをチェック表で把握し、状態に合わせてポータブルトイレを使用するなど自立に向けた支援を行っている	失禁から生じるダメージを防ぎ、自信の回復や身体機能の向上に繋げる為、チェック表でパターンを把握し、プライドに配慮しながら、昼間はトイレ、夜間はポータブルトイレに誘導している。おむつやパッドを使用する時には根拠を明確にし、常に見直しを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫や食前の軽い体操を行っている 緩下剤を服用している方もいらっしゃる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴できるようにしており、希望に合わせて入浴していただいている	利用者一人ひとりの生活習慣や希望に合わせての入浴実施であり、毎日の入浴も可能である。入浴を拒む利用者については、言葉かけの内容やタイミングに工夫を凝らし、実現に繋げている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日の睡眠状況を記録し、把握しており、安心できるように声かけや環境を整え気持ちよく眠れるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の説明書ファイルや医療ノートを活用し、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯や食事の用意などの役割や外出、好みのテレビ番組の録画、壁紙作りなど一人ひとりに合った好きなことや出来る事を見極めながら支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な買い物外出、ドライブや外食など家族の協力も得ながら外出の機会を多く持つよう支援している	近くの神社への散歩や、スーパーへの買い物には日常的に出かけており、外食、弁当持参で公園に出かける等家族の協力を得ながら積極的に外出をしている。外出は、利用者、職員双方にとって、五感刺激や気分転換を図る事ができる貴重な機会であると位置付けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望や力に応じて、お金を所持したり使えるよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙やはがきなどをやりとりできるような支援や希望時に苑の電話を自由に使ってもらっている 自室に電話を設置する事も可能である		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音、光、湿度などに配慮し、居心地よく過ごせるよう取り組んでいる またトイレ、自室の目印や季節感を感じれるよう、花や手作りの壁紙、カレンダーを作るなど工夫している	利用者と職員の共作による月毎の手づくりカレンダー、楽しく過ごした季節行事の写真、畳コーナーで洗濯物たたみに勤しむ利用者の情景に、季節や生活を感じ取る事ができる。動線に沿ったソファの配置等居心地良く、活動のしやすい共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士での談話や作業が出来るよう、環境作りをしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や寝具、馴染みの物など自由に持ち込んでもらうことで、居心地良く過ごせるようにしている	居室には利用者や家族が思い思いに、仏壇、整理ダンス等を持ち込み、写真、化粧品、花等で自分らしさを表現している。居室は内側からの施錠が可能であり、全ての職員は利用者一人ひとりのプライバシーに注意を払いながら生活を支えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の畳対応や転倒防止のためのソファの設置、トイレまでの矢印やほうきや物干し竿なども自由に使えるよう設置する事で自立した生活が送れるよう工夫している		